

令和元年度 家庭教育支援プログラム指導者研修 実施報告①

実施日：令和元年5月29日（水）

【午前の研修】

- 開講式
- 講話「家庭教育の現状と課題、その解決のために」 宇都宮共和大学 特任教授 牧野 カツコ 氏



現代の保護者を取り巻く環境に大変詳しい牧野先生から、「日本の家族はいま」「子どもたちの育ちが危ない？」「母親たちの子育て不安と悩み」「父親たちの子育て離れ」「子どもに必要な大人のかかわり」「みんなで子どもを育てるーいま、どんな支援が必要なのかー」「みんなで子どもを育てる社会を」といったテーマで、子育て中の家庭が抱える様々な課題などのお話をさせていただきました。

貴重なデータや情報、取組事例などを交え、具体的に説明して下さったこともあり、大きく頷きながら話を聞く受講者の姿が多く見られました。また、近くの受講者同士で「児童虐待について」「地域全体で子ども・子育て家庭を支援するとは？」をテーマに協議し、その内容を共有する活動も行われました。

【午後の研修】

- 説明「参加型の親学習プログラムとは」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 和久 真

午後の部前半は、親学習プログラムが開発された経緯やその特徴などについて説明し、受講者に親学習プログラムへの理解を深めてもらいました。参加型学習の形態をとることで、どのような効果を期待しているのか、よりよい学びの場とするために、指導者はどのような役割を担うかなど、冊子の内容を結びつけながらの説明だったので、受講者は親学習プログラムについてのイメージをより明確にできたようです。



- 演習「受講者同士のよりよい人間関係づくりのために」

河内教育事務所ふれあい学習課 副主幹 福田 隆行
安足教育事務所ふれあい学習課 副主幹 萩野 和美

午後の部後半は、親学習プログラムでも実際に用いる「アイスブレイク」について、演習を行いました。

教育事務所ふれあい学習課家庭教育担当の自己紹介後、最初に親学習プログラムにおけるアイスブレイクの意義について押さえました。その後、会場全体でできるアイスブレイク、グループ作りのアイスブレイク、自己紹介で使えるアイスブレイクなど、ポイントを押さえながら受講者がアイスブレイクを体験しました。時間が進むにつれて、受講者の表情がどんどん明るくなり、終了するころには会場全体が和やかな雰囲気になっていました。受講者自身が実際に体験をとおして、アイスブレイクの必要性や効果等を感じ取っていたようです。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・家庭教育の必要性や親学習の概要等について、具体的なお話が聞けて勉強になりました。アイスブレイクについても、参加者だけではなくファシリテーターも含めた場の雰囲気づくりということで今後に生かしていきたいと思います。
- ・家庭教育における現状と課題について詳しいお話を聞くことができ、大変勉強になりました。子どもたちを取り巻く環境に対して、地域も巻き込んでできることを私たちが考えていけないといけないと思いました。午後のアクティビティもとても楽しく、今後使っていききたいと思います。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp